

6月22日(金)

9:00～ 二日目開会(会場:3階 銀河)

祈り

城星学園中学校高等学校

校長 Sr. 宮脇 道子

諸連絡

9:15～ 報告(3)

「一人ひとりを開花させる教育 4から100へ」

賢明学院中学校高等学校

校長 大原 正義

通信制

教頭 長瀬 達也

10:15～ 分科会

①報告(1)を受けて

(会場:2階 白鳥)

②報告(2)を受けて

(会場:5階 瑞宝)

③報告(3)を受けて

(会場:5階 瑞宝)

④高大連携について

(会場:2階 琴)

⑤発達障がいについて

(会場:5階 葵)

⑥小中高の英語教育の連携について

(会場:5階 桂)

11:50～ 昼食・休憩

13:00～ ミサ会場(大阪カテドラル聖マリア大聖堂)へ移動

13:30～ ミサ

司式 大阪大司教区 教区長

トマス・アキノナス 前田 万葉 大司教

14:45～ 閉会式

閉会挨拶

日本カトリック小中高連盟 副委員長

カリタス女子中学高等学校

校長 齋藤 哲郎

次回開催地区代表挨拶

熊本マリスト学園中学校高等学校

校長 岩永 利晴

15:00 終了

(報告3)

「一人ひとりを開花させる教育 4から100へ」

賢明学院中学校高等学校 校長 大原 正義
通信制 教頭 長瀬 達也

(大原校長より)

1. 賢明学院通信制の概要

現在、全国のカトリック学校で通信制課程を開設しているのは、聖パウロ学園（東京）、白百合学園（仙台）、そして本校、賢明学院（大阪）の3つだけである。今日の報告の一番の願いは、21世紀の中でカトリック学校のチャレンジとして、「皆さんの学校でも通信制を開設されませんか」ということで、その気持ちを持って発表させていただきます。

1. 賢明学院の通信制課程開設の経緯

カトリック学校の母体となっている多くの教育修道会は、教育の機会を失った子どもたちに教育をできないかという思いを持たれた創立者が修道会を創り活動を始められたのではないかと。賢明学院も設立母体である聖母奉献修道会の創立者福者マリー・リヴィエがフランス革命の最中、放置されている子どもたちのために教育活動を行ってきたところから始められた。

2011年10月、聖母奉献修道会の第27回総会において示された指針には「教育のカリスマを社会の新しい必要に向かって開くこと」、新しいチャレンジをしませんかという呼びかけが総会で決まった。そして私たちはこの呼びかけに応えるかたちとして、様々な理由で学校生活を続けられなくなった生徒たちのために通信制課程の開設が決まった。そして2016年4月に開設することができたが、今日の発表の「4から100へ」というサブタイトルの意味は、開設当初の生徒数はたった4名であった。そして今年度100名になればと期待している。

通信制課程の実施のメリットは生徒たちの大きな変化である。特に通信制の生徒たちは表情が明るくなっている。そんな生徒の変化を見ると、通信制課程を始めて良かったと思い、また私たちカトリック教育が目指す形ではないだろうかとも思われる。大阪にあるカトリック校から転学してくる生徒もいれば、本校の全日制課程から転籍し賢明学院の教育を続ける生徒もいる。これは私たちにとって大きな喜びとなる。

現状

基本的に通信制課程は全日制課程と同じ理念、同じ教育内容である。具体的には制服、校則もあり、生徒たちは礼儀正しく、規則も守る。そして、全日制課程の生徒とのトラブルも開設以来一度もない。全日制課程の生徒たちに、通信制課程の生徒たちは、私たちの大切な仲間であることを常々言っている。そして勉学の保障という点で、メディア視聴による学習は認めていない。必ずスクーリングのために登校する、そして担任制をとっている。生徒たちにとって負担は大きいですが、単に高校卒業資格取得のみで入学する者はおらず、もう一度充実した高校生活をやり直したいといった生徒が入学、転入してくれている。

更に通信制課程の魅力は、特別活動を履修しなければ卒業できないことである。専従スタッフが

様々な特別活動を企画している。そういう活動を通して生徒たちは仲間意識を持ち、また人数も少ないので学年を超えた交流、一体感も生まれている。

学則定員は 240 名だが、定員まで達した時、はたして今のようなきめ細かい教育をどこまで続けて行けるか、努力し続けなければならないと思っている。

私たちの通信制課程教育が生徒一人ひとりを開花させるためにチャレンジして本当に良かったと思っている。



(長瀬教頭より)

2016 年 4 月に賢明学院通信制課程が開設された。

建学の精神「THE BEST」～最上を目指して最善の努力を 学院のモットーであり、全日制、通信制共通である。また、「祈る、学ぶ、奉仕する」は校訓になっている。

1. 賢明学院高等学校通信制課程について

- ・大阪府唯一の全日制高校併設の通信制である。全日制の施設を使用できるメリットがある。
- ・大阪府・和歌山県を対象とした狭域通信制である。
- ・2016 年 4 月開校で、現在の生徒数は 84 名。通信制の学校は中学 3 年生から入ってくる新入生と年度途中でかわってくる転入生がおり、その比率は半々である。

2. 卒業するための 3 つの条件

① 在籍期間は 3 年間

新入生は 3 年間、転編入生は前籍校在籍期間は認定される。

② 単位習得は 7 4 単位

スクーリングは毎週土曜日に行っている。レポートは基本、家での作成だが学校での個別指導も受けられる。テストは年に 2 回、レポートから出題される。

カリキュラムモデルとして 1 年生は 3 0 単位、2 年生で 2 5 単位、3 年生で 1 9 単位としており、3 年生の余裕のある時期に必要な受験勉強に費やすよう指導している。

③ 特別活動は 3 0 時間参加

学校行事：奈良県、滋賀県のアスレチックを体験。今年は神戸の予定。

昨日芸術文化鑑賞会を実施、なんばグランド花月「吉本新喜劇」を鑑賞。

宿泊学習：1 年生で高野山、2 年生は昨年は沖縄、一昨年は奄美大島で実施。

体験活動：うどん作り体験、海遊館バックヤード見学等。

3. 生徒の一日

全日制とは違う制服を着用し、毎週土曜日登校する。全日制と同じ校舎で、全日制は8時登校、通信制は9時登校にしている。沈黙、祈りから一日が始まる。スクーリングは週一回土曜日だけなので、全員が集中して真面目に受講している。(2分映像視聴)

4. 夢の実現 学習サポート

本校では生徒の進路実現を段階を踏んでサポートして行きたいと考えており、生徒一人ひとりの夢の実現のために毎週土曜日のスクーリングだけでなく、水曜と金曜日に自由登校日を設けて学習サポートを行っている。レポートの個別指導、学び直し、英会話、資格・検定対策などを行っている。また、英検に関しては級ごとの講座を開いている。この学習サポートに参加する生徒は半分にならない。不登校気味の生徒が多く、土曜日に来るのが精いっぱいというのが現状であり今後の課題である。



5. 本音トーク

(吉岡先生より)

・3名の生徒の自己紹介と中学時代の話について

Aさん(3年次生女性): 中学3年生の時に起立性調節障害という病気になり体調を壊し通うのが難しくなり3年生の秋頃から通信制にしようと思った。賢明学院を選んだ理由は特別活動が楽しそうだったから。

B君 (卒業生男性): 高田君: 高校2年生の夏に転入。転入の理由は、1年生の2月くらいから学校へ行くのがしんどくなって、周りの友達と一緒に卒業できる賢明学院の通信制に転入した。最初は馴染めなかったが、先生から特別活動の金剛山登山に誘ってもらい、それがきっかけで学校にも行けるようになった。

C君 (2年次生男性): 中学時代クラスにあまり馴染むことはできなかった、そして中学2年生から別室登校をしていた。いろいろな通信制を見学したが、少人数でしかも学校の雰囲気も良い賢明学院の通信制に決めた。

・学校の変化について

Aさん: 最初は同い年3人だったけれど、今は仲間が増えて友達ができるのが嬉しい。雰囲気も明るくなって、元気になったと感じる。

・賢明学院の通信制に転入して、前の学校との違いについて

B君：先生との距離が近くなったこと。質問等もしやすく、そして誕生日のお祈りが毎月チャペルであり、お祝いのメッセージカード、メダイをいただき、誕生日を祝ってもらえる。

・印象に残っている特別活動について

C君：専門学校でバリスタの体験やウェディングプランナーの講習を受けたのが印象に残っている。

・3年間でこれが一番良かったこと

Aさん：研修旅行の奄美大島が良かった。人数も少なく、学年関係なく楽しく過ごせた。
(宿泊研修は基本2年生だが、1年生3年生でも希望があれば参加できる。)

B君：金剛登山が印象に残っている。あとは海遊館でのバックヤード体験が良かった。

・学習面について

Aさん：出来ていると思う。起立性ということもあり、最初は登校できなかったが、今は英検2級を目指し頑張っている。

C君：英検は4級から受け始め、現在準2級を目指している。

・これからの目標について

Aさん：一時は諦めかけたけれど、先生の話聞いて頑張ろうと思った。今の目標は大学に進学すること。

C君：将来調理師になりたいので専門学校を目指している。

・最初から大学進学を考えていたか？進路選択について

B君：周りの友達も大学進学するので最初から進学したいと思っていた。心理学科を選んだのは自分と同じように学校にいけない子どもたちの力になりたいと思ったから。将来は臨床心理士の資格を取りスクールカウンセラーになりたい。

・最後に自慢できることを

Aさん：通信制に来て良かったと思う。自由な時間も多く、自分のペースで勉強もでき、本当にいい学校だと思う。

B君：大学に無遅刻、無欠席が自慢。

C君：職員室にも入り易く、先生に勉強以外の事でも気軽に話せるのでとても楽しい。

吉岡先生：ここにいる生徒が私たちの自慢です。



(分科会)

①報告（１）を受けて

報告（１）「２１世紀型教育について」

司会 西村（香里ヌヴェール） 記録 川端（ノートルダム小）

報告してくださった石川先生も参加してくださり、話し合いを持つことができた。まず、はじめに、アイスブレイクとして、近くの先生と２回(相手を変えて)ほど石川先生の話の中で感じたことなどを話し合った。

英語についてももう少し詳しく石川先生の考えを聞いた。

多くの英語の先生の意見として次のようなものがあった。

2020年の大学入試は、本当に変わるのか？という疑問を持っている。昔の教育を元にして先生がまだいる。表面的な話で抵抗感を示している。歌う、ゲームをするなど楽しいことをする授業が好きな先生もいるが、本当に力がついているのか疑問になるし、保護者からクレームが来ることもあるのではないかと。英語ペラペラとは、英語が話せる、困らない程度に英語を話せるということなのだろうか。聞き取りに関してもよく相手の気持ちが分かっているかも必要なのかも知れない。他の国々を観ると、英語は、第２言語になっていることが多い。英語をしゃべれるだけでよいというのではない。

これからの英語教育をどうしていくのか、学内で話し合いを持つことが重要である。どうしたらよいか。学内で決める。大学受験が変わるから授業の内容を変える、というのではなく、人のために使う言語としてどのようにしていれば良いかを学内の話し合いで決める必要がある。

他の先生から、しおりの報告の最後のページのスキルランキングについての質問が出た。

石川先生の話

しおりの報告の中で、2015年／2020年に必要とされるスキルランキングの項目で、「複雑な問題解決能力」は、1位で変わらないが、クリティカル・シンキング(批判的思考)やクリエイティビティ(新しいものを生む創造力)は、2020年必要とされるスキルの上位を占めている。決まったことをやっていく、今までのやり方ではなく、新しいことをしていく。ちょっと見方を変える。それが重要になっていく。ネゴシエーションの力が落ちている。AIにとって変わられるのを考えると、これから「もし、あなたが・・・だったら」という問いに変わっていく必要がある。

他の先生からの感想で

40歳以上右肩上がりマインドとあったが、必ずしもそうではないし、ミッションブランドとして、お嬢ちゃん、お坊ちゃんということではなく、カトリック学校は、貧しい人にも開けたミッションスクールであることに意義があると考えている。

石川先生の話

学校改革をやっていく上で、やはり行き詰まることがでてくる。ブランドでミッション教育を行っている。授業料を払うことができない人たちへの全人教育をこれからもやっていく必要がある。恵まれない階層で求められたこととは何か、私の学校ではどうかを考えさせられた。都市部と地方の学校の事情は違うが、カトリック学校に来る方は、救いを求めている。周りに認められていないときに、カトリック学校ならば、救ってくれるのではないか。そう考えて選ばれるケースが多いように思われる。居場所を見つけてくる子ども達がすぐに変わるかということそうではないかもしれない。3年間かけてやる必要があるかもしれないし、もしかしたら、3年だけでは足りないのかも知れない。簡単に言って変わるようなら良いが、カトリックの教育の中では、粘り強く、関わっていくことがカトリック教育である。

図書館という中で子ども達を育てるという考えがあつて。その中で子ども達に対する重要な情報がある。普段の生活では見落としがち。子ども達に色々与えたい。図書館を教育の場として与えたい。情報をどのようにとるか。編集し発信していくか。図書館の授業をもっと見直した方が良い。足元をしっかりと見ていくことが必要である。

Men for others

何をしたいかわからない若者たちを見つけてあげる。

小学校：教育目標を見直す。全人教育を見直す。アクティブラーニングに近い教育ををはじめている。学んでいく量は変わらないのに、時間が決められている。

小学校、中学高校と隣接している学校があるが、まるで違う学校である。先生通しで繋がっていない。行事で何かをするときにも違う。系列の学校同士でどのようになるのかを話していく必要がある。大学などから入試が変わるので、高校の授業が変わるなど、上から落として来る感じが多い。それよりも小学校から中学校、高校へと発達段階で良い教育を行っていく。ICT教育をどう使っていくのか。導入において大変。人間ができないことを一発でできる。生徒たちに作業をさせると、ipad 上に書くとみんなでそれを見ることができる。発表ができる子は、ほんの少ししかない。画面で移すことで発表が簡単にできる。また他の人の意見と比較することができる。グーグルマップなどを使えば、全体を上から見下ろすことができるし、人間の目を複眼的に見えるようにするのが ipad である。ipad の環境を整える。授業で使用する。先生の中で ICT 教育の研修に行きすぎる人もいる。行ってもいいが、その内容を学校内で還元されることが大事である。ipad を使うことができるようにする。基本は、今までのことが大事で、ICT ありきではない。なくてもできる。

大学入試に合わせて、大学入試があるからこうしていこう、と考えている。コツコツやっていたら力が上がっている。進学実績を出しているというところもある。改革をするとすると、バランスが取れないことの方が多い。

最近の大学入試は、一般入試で受け入れる人数は、少ない。一般入試の枠が小さくなっている現象がある。大学の中でも人を受け入れる人数は、決まっている。第一志望で良い人を受け入れ

たい。一般入試とAO入試とどちらの方が入りやすいのか。大学入試等に合わせて考えて勉強させる必要がある。高校で求められていること。どう勉強していくかは、学校に委ねられている。

学校改革の中で、共学というのは一回しか使えない。改革として何をしなければならないのか。日々の中で何が一番良いのだろうか。授業などの工夫を学校の中で話し合う中で決めていかなければならない。アドバイスをいただけたらありがたい。

女子校の良さ：男子がいたら任せてしまい、引いてしまう。女子校なので、どの方面でもやることができる。さらけ出してみんなのためにできるのかなと考えている。

私学は、男子校、女子校それぞれ別々が良いと思う。同じ年齢で同じ性別の人たちが集まるのは、その段階でしかない。それはあってもいい。石川先生がいた小学校では男子と女子で別クラスにすると活気が出てきた。自己をオープンにすることができる。自分が考えていることが出せるか。男子だけ女子だけにすると意見が活発に出せる。男子は、文章が作れない。単語だけで話すことが多い。女子は、やりくりする能力に長けている。なのに、女子校としての威力を発信しないことが多いのではないか。良さをわかっていない人よりも悪いところばかり目立つ。自校の良いところを。先生たちがその良さをわかっていない。どんな社会貢献ができるのかを考える上で、今がカトリックの良さが出るところである。学校としての情報を発信して行く必要がある。広報が下手。管理職がなんとかしてくれる、ではなく、一致団結してやっていける秘訣を考えて実行する。目標を作り、自分の生活が困らないように。人のためにしなければならないことを考えて何かをする。危機的状況を見て戦う。少しはできる。危機だからやれば、ほとんどできない。悪口のいい合いになる。みんなでハッピーハッピーになろうという感じだが、難しい。

改革の中で専任の先生を辞めさせたこともあった。閉校する直前の話し合い、それで何ができるか話し合うのがとても楽しかった。

変えて行くには、理事会がある。管理職があり、現場がある。理事会と管理職では見えにくい。理事会を機能させることが大事。管理職の機能を話し合うことが大事。一番危機的な状況をチャンスに変えていく。茹でガエル状態は良くない。決断するかが問題。

一言感想。

四日市メリノール中学校高等学校校長

ブランドという考えから入ってくるわけではない。中から見ると、英語は大丈夫かなと思う。

日本語がきちんとできていないと、日本のことをきちんとしていないと英語は生かせない。2年前に共学化にしたが、中学は14名の入学。先生たちにも経営面を知ってもらう必要があるし、変なプライドを捨ててもらう。昔は良かったなどの考えを捨ててもらう。できていないことの認識から始めた。

聖母女学院中学校・高等学校校長

香里ヌヴェールが飛躍的に変わった様子を見て、男女共学をしなくてもよかったと思える。理事会決定だから仕方がないが、男女でやっているところを見ると良かったかなと感じる。

カリタス女子中学高等学校教頭

何かしたいけど、できない。このままではよくない。周りに共学になる学校が多い。

上智福岡中学高等学校校長

7年前に男女共学になった。福岡では、男子校が共学化した。中学に入ってきた子ども達は、男女共学できている。先生方も慣れた。ハード面では改革ができた。ソフト面では、英語の改革を行っている。満足がいくものができている。授業を受ければ、検定試験なども大丈夫。いまのスケールが適正であるか。学則定員を減らす必要があるのではないか。将来そうなるだろう。受験者は多くない。減っていく場合、定員が今のままで適正かどうかを考える必要がある。

エスコラピオス学園海星中学・高等学校校長

21世紀型教育。7年前からやっている。教育理念とつながっている。

函館白百合学園中学高等学校教頭

2020年に開催する担当なので、参加。地方都市、函館でブランドを活かせたら。白百合は宣伝が下手。

聖ドミニコ学園小学校校長

小学校から中学校の英語の連携。小学校では、国語を中心に指導している。

清泉小学校校長

平和を築く人間を育てたい。時間を増やし、毎日英語に触れる英語の時間にしたい。使命。毎日英語に踏み切った。生活の中で英語。新しい自分の発見。



②報告（２）を受けて

報告（２）「学校法人同士の連携について」

司会 岩城（城星中高） 記録 鳥山（ノートルダム中高）

自己紹介と昨日の報告に関する意見

ノートルダム女学院 鳥山教頭

- ・洛星とは、オーケストラクラブ（高山右近列福式で２校で演奏）や教務などで連携をとっている。

四日市メリノール

- ・四日市海星とメリノールと共同歩調を取りたいが、現在はまだ軌道に乗っていない。課題があり、動ける状態ではない。

城星学園 宮脇校長

- ・星光とは学力面で大きく差があるので、問題もあり、課題はたくさんある。
- ・小学校は城星にもメリットがある。

札幌光星学園 市瀬校長

- ・北海道では、藤女子と旭川藤女子 理事会が合体 両校とも共学化した。
- ・11年前に本校も共学化してるので、この２校と協力出来ないか。
- ・北見地区の教会と学校・旭川地区の教会と学校。

熊本マリスト学園 岩永校長

- ・九州地区もカトリック学校が存続に苦しんでいる。
- ・修道会から一般教員にミッションを渡された状況で、受け身になっている。

淳心学院（姫路） 藤村副校長

- ・日本人の校長となり、ミッションを続けるためにヒントが欲しい。
- ・隣りに女子校がある。交流を持とうとしたが、男子生徒との交わりに抵抗があるよううまくいかなかった。

田園調布雙葉小学校 南部校長

- ・どうやって深めていけるか？
- ・東京のたくさんのカトリック校で、（生徒の奪い合いもあり）どのように連携できるか？
- ・本校は大学がないので、上智大学など、縦の連携のヒントも欲しい。

長野清泉女学院中高 大橋校長

- ・２年前を最後に、職員室から Sr がいなくなった。

- ・修道会が無くなると共に学校を無くすのは残念なので、法人同士の連携で存続のためのヒントと
ならないか？

カトリック学校連合 品田事務局長

- ・小学校から星光への特別選抜制度で、小学校の男子が女子より多くなるのでは？と思ったが、女
子も増えたという報告も聞き、これからどうなるのか気になる。
- ・京都のNDと洛星も、今回の報告と似ていると感じた。

アサンクション国際小学校 武井校長

- ・聖母女学院とともに、2017年校名を変更して、管理職の交流も含めていろんなことをやろうとし
ている。
- ・サレジオ会の話は、正直なところ、なぜ連携がなかったのか疑問だった。

海星中高（長崎） 坪光理事長

- ・長崎も子供の数が減っているが、長崎県内22校中5校のカトリック学校。
- ・市内で定員を確保するのがとても難しい現状。
- ・中学で必死に育てても、公立のトップに逃げる。
- ・長崎南山(男子)・海星(共学)・純心(女子)が協力しないと、諫早にある長崎日大(諫早)に長崎市
内から生徒を取られてしまう。

海星中高（長崎） 武川校長

- ・長崎なので、信者は多い…5校あって取り合い。
- ・連携はせざるを得ない 一つは教科により教員の共有。
- ・サレジオ会だからうまくいっているが、カトリックの括りでもっと連携できないか？
- ・昨日の話での疑問は、8名の特別選抜の生徒は絶対に落とさないのか？→内部の成績を見て決めて
いるが、教育委員会から「推薦」は禁止されているので、小学校が推薦した8名は必ず取るが、
発表は一般と同時に行う。

城星学園 岩城教頭

- ・「連携」とは「情報を密にして」
- ・星光との差は歴然。
- ・幼小中校とあるが、小→中の内部進学2名だった…城星の内部の問題として何とかしなければ。
- ・女子校だが、ICT教育など男子校でもやっていないことをやっている←内部にいと、この素晴ら
しさが見えない…外を見ることで、再認識したい。
- ・小学校の男女比は、多少男子が増えるかもしれないが、同比率となるように調整している。

城星小学校では学年100名位で、2名しか内部進学しない。

カトリックから公立・他の私学に行く生徒は何故なのか？（南部校長）

→関西は、大学進学が学校選びの特に大きなポイントである。（岩城教頭）

海星中高（長崎） 武川校長

- ・長崎では、人口も激減していて、所得も低いため、学校によっては大半が特待生の学校もある。
- ・長崎県内では、カトリック校同士も生徒の取り合い。
- ・共学化したときに、公立の入試制度も変わり、それも要因で生徒が増えた。
- ・行事だけでも一緒にできないか？

熊本マリスト学園 校長 岩永先生

- ・北海道で取り組んでいるように、司教様がカトリック校をまとめたが、九州で（県をまたいで）教区でまとめるのは難しい？

北海道の取り組みについて 品田事務局長

- ・藤学園が11の事業体
- ・北見藤女子と旭川藤女子の人口減により、経営が成り立たない。
- ・幼稚園14の法人が、2つの女子校を引き受けてくれないか？打診した。
→勝谷司教は、高校の経験がないことと、共倒れにならないかが不安だった。
- ・数字で可能なことを示し、勝谷司教に引き受けて頂いた。
- ・勝谷司教は忙しいので、理事長を引き受けていただくが、それを支える人達が重要となる。

札幌光星学園 市瀬校長

- ・生徒指導・進路指導など、光星・北見藤・旭川藤と3校で研修会を合同で行う。
- ・光星の副校長が旭川藤の校長へ。

ノートルダム女学院中高 鳥山教頭

- ・四日市メリノールと連携を開始しようとしている。
- ・新しい入試制度（育成入試）と添削アプリについて、伊藤学院長・高木校長から共有のお誘いを頂いた。
→品田事務局長
- ・8月の校長研修会で、伊藤学院長からお話を頂く予定にしている。



③報告（3）を受けて

報告（3）「一人ひとりを開花させる教育 4から100へ」
司会 矢野（賢明学院中高） 記録 原山（賢明学院小）

1. 自己紹介

参加者：佐々木（宇都宮海星女子学院中高） 田島（晃華学園小） 大矢（東星学園小中高）
糸井（神戸海星女子中高） 諸田（明光学園中高） 藤田（長崎南山中高）
倉岡（熊本マリスト学園高） 大原 矢野（賢明学院中高）
長瀬 木谷 吉岡（賢明学院高通信） 原山（賢明学院小）

2. 各校の現状，報告の感想と質問

- ・精神的に不安定、長期不登校生徒が学年に2～3名いる。通信制に転学していく。
- ・精神的に弱い生徒が多く15年ほど前に通信制を検討したが、全日制でも対応できていないことがあるので併設を断念した。
- ・各学年に不登校気味な子がいるので、多くのヒントをもらいたい。
- ・不登校気味な生徒を受け入れたなら、卒業させるのがミッション。できるなら通信制をやりたい。
- ・学力の低い子，不登校気味な子がカトリック校だから入学してくる。昨年、理事会で通信制が話題になった。
- ・本校はスクールカウンセラーの守秘義務が多く、情報が入ってこない。組織としてどのようにスクールカウンセラーの立場と役割があるのかと生徒と教師の距離が近いことについても知りたい。
- ・不登校気味な子が若干いる。課題を与えて卒業させている。通信制を検討しているが、学校として併設された時のイメージの影響が気になる。

3. 賢明学院高通信制より

学校案内・分科会で配付された資料に基づいて補足説明があった

- ・3つの特長（少人数制・体験活動・資格取得）、スクーリング、学校生活、時間割、英語学習、特別活動、資格取得について。
- ・不登校生徒とのコミュニケーションで大切にしていることは、感情の共有と必ず声かけをすること。例えば、生徒がしんどいと言えば教師もしんどいなあと答える。
- ・全日制と基本的に校時表が違うので、一緒になることはほとんどない。
- ・学校生活のルールがあるから入学してくる生徒が多い。

4. 不登校の理由

- ・校長が代わり、不登校の生徒を受け入れない方針で以前より少なくなった。一時は、問題を抱える子が一学年の約半数の時もあった。不登校以外では、生徒間でのコミュニケーションが取れない、学習についていけない子が数名いる。

- ・睡眠障害、拒食症。合否は試験のみで決めるので、入学しないとどんな子かわからないところがある。入学してくるかどうかわからない状況で、不登校生徒対応の組織作りが難しい。
- ・本校（小）ではほとんどいないが、昨年から複雑な家庭環境の子が1名いる。
- ・発達障害の子が多くなっている。カウンセリングを月曜日から土曜日に行っているが、予約がいっぱいである。
- ・学業不振、人間関係、集団で同じ場所にいることができない。
- ・教室にみんなと一緒にいたくない生徒が多い。中学時代不登校の子は、自分のまわりの子が本校に入学してこない理由で選んでいて雰囲気はよい。
- ・どうしてもまわりの子となじめない子が各学年に数名いる。
- ・賢明学院の場合は、不登校8割、学業不振1割、起立性障害1割。進学校での成績挫折、発達障害で低学力、薬を飲んでいるうつ病等の生徒もいる。スクールカウンセラーとは、月一回は必ず会議を持ち情報の共有をしている。また、保護者があとから三者面談で情報を追加してくるケースが多い。

5. 設立と現状について

- ・保護者、卒業生からの反対は特に聞いていない。府の認可にはとても苦労した。基準が厳しく、膨大な書類を準備したが、何度も作り直して多くの時間を費やした。
- ・経営は厳しい。納付金は少ないし、補助金は極端に少ない。
- ・通学区域に兵庫県が入っていない理由は、府は広域の申請を受け付けていないので、本校の地域的な理由で大阪府と和歌山県とした。月1回会議があり、大阪8校が情報交換している。最近では、各校とも通信制への転入が激減している。
- ・現在のスタッフは、専任が6人（国1・数1・英1・地歴公民1・体2）、非常勤が3人。全日制課程との兼務が8名。
- ・授業料は1単位1万円。入学金は全日制より安い。特別活動費は年間6万円。研修旅行は積立金を充てる。
- ・今後、人数が増えると空き教室の確保が今までよりは難しくなる。
- ・カトリック校として、宗教的な行事は全日制の生徒とほぼ同じ内容である。祈りで始まり祈りで終わる学校生活である。校長講話は、月1回。始業式や終業式はチャペルで行う。時にはシスターの理事長先生からのお話も聞き、クリスマスタブローなどは全日制と合同で参加している。
- ・全日制からの通信制への転籍理由は、出席日数が足りないこと。通信制から全日制への転籍は、単位制と学年制の違いでできない。
- ・昨年度までで卒業できなかった生徒は10名中1名。休学1名。在籍は最長8年。

6. その他

- ・運営や募集、入試に関して学校案内に基づき説明をした。
- ・個別相談会や入試相談会など入学までの数回の話し合いで深い話をする。入学してからも成長の変化やほめるべきことをこと細かく保護者に伝えている。教師は、とにかく生徒とよく話を

している。職員室は、生徒とすぐに話ができるように常時オープン。

7. まとめ

- ・カトリック校が一人ひとりを開花させるための教育の方法として通信制を考えることができればよい。経営的には苦しいが、ぜひ検討をしてほしい。これから通信制を考えている学校には、カトリック学校としての連携で惜しみなく情報を提供するし、協力をする。どうか声をかけてほしい。

所感

人間関係、学力不振、発達障害、家庭環境など不登校気味の子が、どの学校にもいることを改めて知った。先生方は通信制が取り組んでいることに関心を持ち、同じような問題を抱えている子に対して何か指導に役立てられないか、通信制を検討するにはどのようなことが必要かなど積極的な意見と質問が多く出され、時間がすぐに過ぎてしまった。短時間ではあったが有意義な話し合いをすることができた。



④高大接続について

講師 藤井 雅徳 (ベネッセ)

司会 亀谷 (城星小) 記録 田島 (ノートルダム小)

参加者 34 名

ベネッセの藤井雅徳氏による講演「大学入試改革の情報整理とその方向性について」を聞き、その後質疑応答を行った。

世界は第4次産業改革に突入した。デジタル技術の進展により、あらゆるものがインターネットにつながり、新たな経済発展や社会構造の変革が誘発されている。日本の大学は世界から取り残されてきている。論文数は減少し、東大ですら世界ランキング下降に歯止めがかからない。海外の大学は多面的・総合的に評価をして入学を認めている。「共通願書」のアプリケーションに学力・成績・受賞歴・課外活動・エッセイ等を入力しエントリーすることで、各大学が合格を判断する。

日本にも新たな調査書・出願方法が必要である。「JAPAN eポートフォリオ」は文科省から委託され構築された。しかし・・・。

高大接続改革は開始されたが課題は山積しているという流れのお話であった。そして、その後の質疑応答は全国の高校現場での混乱ぶりが垣間見える内容であった。

広島県ノートルダム清心中高等学校 中路教頭：

Eポートフォリオについてこれから進むと言われたが、広島の公立校でクラウド機能のものは不可。長崎県では条例で不可。ベネッセのお膝元の岡山県も苦勞されている。そのような状況の中で、大学も入試で実際に使うのか。入学後に資料として活用すると逃げている。大学の担当者に何うと「文科省は委託はしたが、責任は取らない。実際に動かしている大学でやってほしい」とか言っている。

A：大きな流れで言うと、就職試験のような流れにならざるを得ないと思われる。それが10年後なのか、5年後なのか、3年後なのか、時間軸の問題である。この鍵となるものは、「デジタル調査書」である。調査書をペーパーレスにするため電子化する方向で進んでいる。個々の生徒の履歴を電子化することでeポートフォリオを使用しなくても、それを大学が見て評価することもできる。ただ、大学が調査書をどのように受け止めるかはさまざまである。早稲田大学のように出願要件としては全員に提出させるが、入試で合否を出すとは書いていない。大学側も多面的総合的評価に変えていこうとはしているが、判断は難しい。しばらくは情報を集めて大学ごとで見定めて多面的総合的評価を導入していくと思われる。eポートフォリオ活用の参加大学（全国91校）はほぼ全て、一般入試で一気に使用するのではなく、推薦、AO入試で使ったり、一般入試でも一部だけであろう。しかも、これは現高3の入試に対してである。各大学がまずは情報を集め、様子をみようとしている。そして、今の高1の大学入試で実際に合否に使われるか、自分たち（ベネッセ）も注目している。高校現場のネット環境の整備も含めた話であるが、今インターネット出願も同じ話で、各大学に出願するときにはほぼ全ての大学がネット出願になっているから、そこで出来ているのに、出願の時にeポートフォリオが使えないというのは区別をしないといけないと思う。教育で使うeポートフォリオは確かに色々な意見があ

る。セキュリティーの問題、デバイス（パソコン機能）の問題、インターネット環境の問題、子どもたちのスマホを使うのを良しとするか等である。入試の際は、個人の意思でeポートフォリオを使用する。

中路：学校が作るものは公共のものである。ネット出願は個人の責任で出せる。長崎の条例で決まっているのは、公の機関が情報を出せないという問題である。国がしようとしているのに各都道府県が情報を出せない状況にあるので現場が混乱している。国が責任を取らないからだ。研究大学にも責任を取れと言っていない。だからそれ以上進まないのではないかと感じる。

また、新テストの最初の実験で国語も数学も平均点が低すぎた。今回は50点を目標にするという。さらに、前回は11月実施で年内に結果を出すと言いつつも3月まで発表が延びた。テストとして機能していない。今回も5割を目指せるのか疑問である。また国語においては自己採点がうまくできない。自己採点ができないのでは高校・大学の現場は混乱するだけと感じる。

A：去年は大学側にも高校現場にも国としてのメッセージを前面に出した試験問題であった。正答率の低さもある程度予想していた。難易設定については調整は可能であると思っている。

今回5割を目指して低すぎたり高すぎたりするならば、2019年度に3回目の試行テストを実施するだろうが、今回の問題なければそのまま本番にいくと思う。ただ、国語と数学の段階別評価は課題が残ると感じる。加点にするのか、参考にするのか各大学に判断が委ねられているからだ。特に、英語は出願資格の有無に影響するので注意が必要である。

福岡雙葉中高 中馬教頭：

3点伺いたい。

- ①本校には帰国子女もいて高1で英検1級を取得している者もいる。その生徒が高3でもう一度英語の民間試験を受けるのは費用の面でも時間の面でも負担と思う。高3で必ず受験しないといけないのか。
- ②東京大学は「大学入学共通テスト」を活用しないと聞いた記憶がある。国大協の足並みが揃っているのか疑問である。
- ③早稲田大学の文系の入試に数学I・Aが入った。これは地方創生を狙う国家の戦略か。

A：①英語に関しては高3の2回が規定になっているので高1等で取得していても再受験の必要がある。

②東大の一部の教員の発言であり、東大の公式な見解では国大協に従うとなっている。

③早大は18歳人口の減少を視野に入れ、一般の募集枠を減らして社会人や外国人留学生の受け入れに回そうとしている。地方創生は無関係と思われる。慶応大も文系に数学を取り入れている。国公立大を目指す生徒が私大を受験しやすくするのが狙いだと思う。

東京都暁星中高 光藤教頭：

働き方改革で部活動が学校から切り離されていく傾向がある。ポートフォリオの趣旨と逆行していると感じる。調査書は紙ベースがデジタル化されていく流れであるが、以前から大学は調査書を見ているのか疑問であった。国語の記述に関しては、誰が採点するのかまだわからないし、生徒への指導も難しい。そもそも、欧米の大学の入口だけ真似をしても大学の論文数の増加（学力の底上げ）にはならないのではないかと感じる。

A：eポートフォリオは紙だと100かかる手間が60や50に軽減でき、さらに大学個別に提出していたものを集約できるという発想から生まれている。国語に関しては、そもそも国語科の内容かということも含め、今回の試行試験に注目したい。大学入試も大学の中身を変えないと全く意味がないのは同感。英語だけをみても、大学のカリキュラムは未だに4技能に対応していない、理系の3～4年生に英語がないなどの問題がある。大学の補助金や無償化に関して、改革がなされている大学のみ絞る方針を聞いている。海外トップ大学の人気の教養講義は「哲学」「コンピュータサイエンス」「経済」。イエール大学で最も人気の講座は「どう幸せに生きるか」である。日本と大きく異なる。

東京都田園調布雙葉中高 滝口校長：

英語のスコアの幅が気になる。A1、A2のランク付けだけに使われるのか、細かいスコアは検討されないのか。

A：高3の8割から7割がA2に入ると考えられている。国公立やMARCHレベルがB1以上と考えられる。ご指摘のとおりA2にもかなりの幅がある。その評価は大学が判断する。細かいスコアをみるのも各大学に委ねられる。

大阪星光学院中高：宮本教頭：

課題研究に疑問がある。SSHでやっている課題研究は多分そのまま認められると思うが、高校独自のものが、どのような評価を受けるのかわからない。また、本校のように中高一貫校は、中学段階で海外研修や探究活動を実施している場合が多いと思う。中学の活動がeポートフォリオに載せられないなら高校で実施して欲しいという声が保護者からあがっている。

A：次の指導要領で「探究」は絶対に入ってくる。大学はそれを評価する入試に100%変わっていくので、数年後には必ず導入されるのであれば、高校側は躊躇せずに取り組んだほうが良いと思う。また、調査書にどのように記載するか、調査書でアピールするのか、推薦文など他でアピールするのか、やり方はあると思う。

宮本：eポートフォリオは海外の大学に提出できない。フィールノートは海外に出すことができる。ベネッセとしてはどう思っているのか。

A：アメリカの大学の場合は「コモンアプリケーション」がほぼすべての出願システムである。イギリスは国が「ユーキャス」という共通願書を作っている。eポートフォリオは日本の大学入試に共通の願書として対応するシステムである。入試までの生徒の履歴に関しては、いろいろな業者が開発している。各学校に合ったものを選ばれたら良いと思う。

宮本：これからもいろいろな業者がシステムを作成すると思われる。高校現場としては本当に迷う。冒頭の質問にあったとおり、責任の所在が明確でないからだ。現在の試行は、すべてが「実験」なのである。それなのに生徒にはIDが与えられる。個人情報の漏洩に不安が募る。国も大学も業者も責任がとれない実験に高校が乗っかって良いのか不安である。

神奈川県横浜雙葉中高 千葉理事長

僕も怒っている。英語の検定にしても中1で1級をとっている子もいる。それを高3でお金まで払わせて再取得させるなんてとんでもないことである。それを業者も一緒に進言してくれたら良い（会場爆笑）。ベネッセもリクルートも自分のところのシステムの売り込みに必死だと感じる。

私は関学で開発研究をしている先生に「おたくの大学でこれを使うか」と聞いたら、「これは研究だけで使うかどうかわかりません」と答えた。このシステムはお金がかかる。大学は国からの補助金目当てで研究はする。研究指定された大学は補助金が入るが、対象外の大学はたまったものではない。生徒の成長過程を示すものとしては良いと思うが、全体には無理がありすぎると感じる。ベネッセには「あまり乗るな」と言いたい。



⑤発達障がいについて

講師	大阪明星学園スクールカウンセラー		山下 弥都里先生
司会	明星中学校・高等学校	教頭補佐	大橋 寛先生
記録	城星学園小学校	教頭	中川 美紀先生

出席者	京都聖カタリナ高等学校	校長	園田 研一先生
	南山国際中学校高等学校	校長	山田 利彦先生
	旭川藤星高等学校	校長	木元 次男先生
	大口明光学園中学校高等学校	教頭	福嶋 眞理子先生
	賢明女子学院中学高等学校	副教頭	藤岡 佐和子先生
	サレジオ小学校中学校	校長	北川 純二先生
	浦和明の星女子中学校高等学校	教頭	小磯 敦先生
	南山大学附属小学校	副校長	松浦 典文先生

1 講師 大阪明星学園スクールカウンセラー 山下 弥都里先生ご紹介

2 先生方の自己紹介

- ・なぜこの「発達障がいについて」の分科会を選んだのかの理由も添えて。

3 パワーポイントによる解説（別紙参照） 以下補足説明

p 4 ・自閉症は重なることが多い。知的には問題なし。行動に問題がある。

p 5 ・例え話がわからない。「地道にいきなさい」…どの道？！

p 6 ・食べ物の好き嫌が多い。例えば、白いものしか食べられない。野菜を全く食べない。など。

- ・感覚過敏の例として…授業がうるさいと感じる。必ず匂いを嗅ぐ。洋服に拘りがあり、着ることができない。「痛い」に過敏で泣き喚く。光が眩しい。など。

p 7 ・「受動型」…発見されにくい。

- ・「尊大型」…高学年～高3くらいに出てくる。偉そうに言う→敬遠されてしまう。

p 8 ・順序だてるなど説明が苦手。トラブルになりやすい。つじつまが合わない。

- ・オタク的。「天才」社会に出て大成する。

p 9 ・衝動性…ジャイアン症候群

p 11 ・ディスレクシア…トム・クルーズが公言している。

p 13 ・生活に支障が出てくる。不登校になりやすい。手洗いを何回も。

p 22 ・大学も手厚い支援がなされている。

4 分かち合い

- ・支援の部屋がある…4校。別室で支援ができる。出席の扱い方の配慮。

- ・事例として、クラス内の対応の優しい子を独占しようとした事が紹介された。そこで、行過ぎないように調整すると、「担任からその子と離された」と言われる。
- ・発見したら、教員が介入する。支援は生徒がするのではなく、担任がしていく。
- ・初期発見，初期対処は大切。サポーターを多くつくる。
- ・校長室に「箱庭」を置いている。
- ・明星は生徒数 2000 人。1つの部屋を学習ルームとしている。情報の共有をする。
- ・親のフォローが難しい。カウンセラーのお力を借りる。
- ・対応する担任は大変で困っている。チームで取り組む。
- ・保護者を呼び出して指導する → 保護者を労うことはとても大切。同時に行うとよい。
- ・児童・生徒だけでなく、職員間でも同様なことがある。言い方を間違えるとパワハラになるので話し合うことが大切。
- ・いきなり言う（伝える）のではなく、傾聴する。プライドが高いので直接だと受け入れられない。
- ・1：1で話す。「何か（困ったこと）ありませんか？」
- ・先生のよい部分を具体的に誉める。
- ・自分の辛さとして捉えてみる。受け入れる。
- ・認めたところで「～してみても、どうだろうか!？」と伝えていく。

5 所感・メモ

- ・本校においても「発達障がい」の児童に対応し、保護者と共に支える場面が多くなってきている。とはいうものの、今回の話を聞いて、年齢の違いはあるものの、本校は立ち遅れていると感じた。
- ・早くから学習ルームを整え、カウンセラーの先生の指示に従い進めている学校もあり、学校に行きたくない、クラスに入りにくい生徒の居場所が保障されていることは必要だと感じる。
- ・H28年「教育に関する発達支援の改正」や「障がい者差別解消法」による「合理的配慮」の義務化により、教育の現場ではより難しい場面に直面することが増えた。それぞれの学校も迷いながら運営されていることもわかり、今後どのように進めていくべきなのかを学ぶよい機会となった。カウンセラーの先生や教育相談室の先生、教員同士、保護者と「チーム」となり、その児童を支えていくことが大切である。
- ・本校の場合、現実には、児童よりも保護者の対応に翻弄されることが多い。でも、その保護者にも寄り添うこと、時には毅然とした姿勢を見せていかなければならないことも強く感じている。



⑥小中高の英語教育の連携について

発表：「中学・高校の英語教育に関して」城星学園 中学校・高等学校より

司会・進行：城星学園小学校 亀谷校長先生

記録：ノートルダム学院小学校 田島

(17名参加)

城星学園の取り組みから

◆中高6年間の英語教育の目標

英語を「使える」ようになる。

様々な考えを吸収し、新たなものを生み出すことができる。

ローカルからも活躍できる人材育成

・中学校での取り組み

その1：Phonics を使い、音声から文字化する。

英語のつづり方と発音の関係を学ぶことにより、知らない単語も推測して正しく発音できるようになる。

その2：二段構えで徹底サポート…学習内容を定着させ、さらに伸ばす。

パターンプラクティス、小テスト・単元テスト等での確認、教科書以外の読みもの

その3：Portable Music Player を配布

Shadowing を毎日、朝学習でも実施するとともに、携帯音楽プレーヤーを配布し、自宅でも行う
＝音声に関する自信を持つ。

聞きながら話す、という2つの動作を同時に行う。

Out Put の場をたくさん提供する

- ・各種研修：1年生：English Camp、2年生：沖縄平和学習・遠足の企画・立案、3年生：グアム修学旅行（今年度は香港）

発表の場を与えることによって、主体性をもたせる。

・高校での取り組み

その1：中学3年間の学習の再確認

朝学習で弱点の発見・修正、単元前に中学学習範囲の再確認。

その2：小テストを徹底して行う。反復学習を大切に。

学習習慣をつける・習慣的にプレッシャーをかける。

その3：WPM (Word Per Minute) で Speed Reading を意識する。

1分間で読める単語数を知ることで進捗状況確認。110以上目標（60以下は遅い）

Slash Reading で返り読みを防ぐ指導

同時通訳者の行う勉強方法。さらっと内容をつかんで進む。

・その他の中高での取り組み

各種検定で目標設定、自分の力を客観的に理解：GTEC for Students を全員受検
全校生徒対象 Recitation Contest 実施：2学期に全員参加の予選→ コンテスト
オーストラリア語学研修実施（高校2年希望者）

Weekly English Assignment 実施（高校全生徒）：毎週週末課題として Topic 掲示

四技能を考えた教育に関して

- ・四技能型テスト（GTEC）導入がスタート
- ・GTEC 導入後の変化

英語科教員の変化＝研修会への参加増・授業改革＝四技能型テストへの対応・Step - up Note 学習
＝模試への事前学習の必要性が浸透

中高英語教育での四技能に関して

- ・Speaking & Listening：早い段階からやる方がルーティン化できる。高校からでは遅い。
⇒ 自宅学習の確認、家庭学習で雑な取組にならないように、Dictationn（小テスト）などを行い
取り組みの定着をはかる。＋ 適切な評価、プレッシャー
- ・Reading
中学では読む量を増やす。高校では授業でサイトトランスレーション、スラッシュリーディング。
自分のWPM（数字）を知ること、意識改善。取り組みとして概ね成功。
さらに伸ばすために、Graded Reading の取り組みを本格的に導入する。
- ・Writing
中学では週1回、2年はdiary、3年は簡単なトピックでwriting
高校では週一回、全学年で実施 ⇒ ネイティブがチェック
日本人教員はLogic の立て方、ディスコマーカを使った「型」を説明。
自分の意見を「型」にはめ込む。
(自分の立場の表明・自分のサポートするアイデアとその理由・まとめ)

⇒ 「型」をはめ込むだけでは限界あり。今後はTyping を絡めた指導に切り替えたい。

⇒ 取りくみの多さ…しかし何かをやめる訳にはいかない。挑戦しないことには前に進めない。

まとめ

- 1 四技能法テスト導入による変化（授業改善）
- 2 取りくみをしっかり、Output の場を提供（主体性の育成）
- 3 Graded Reading/Typing の取り組みを充実（一層の定着をはかる）
- 4 Input（従来の指導法を含む）とOutputのバランスを考える

感想等

*東京暁星小学校：吉川校長先生

十数年前までフランス語学習を行っていたが、英語学習に変更（週2時間）。英語専科教員が日本人2名・ネイティブ1名で形になってきた。課題は、中学校受験で入学してきた子達と、小学校から内部進学する子達との格差への配慮。12年間のサポートを考える。カトリック学校として、英語教育はどうすべきか、という課題に対して関東の学校で交流を始めた。

*百合学院中高 赤松教頭先生

小学校との連携はなかなか難しい。内部進学、インターナショナルスクール、公立小学校より進学してくる生徒など、英語の力や思いに違いがある。授業そのものが大きく変わっていかねばならない。

*愛徳学園小学校 山本教頭先生

小学1年生より週2時間の英語学習は昔から行っている。1時間はネイティブ、1時間は日本人教員が指導。インターナショナルから入学する児童も増えた。本年度の1年生よりグループシード導入。週3時間授業実施。幼稚園もあり、小学校教員が出向いて指導する計画もある。母語同様に聞いてから話すことが重要。それには、家庭との協力が必要。

*聖パウロ学園高等学校 佐々木校長先生

日本の英語教育が大丈夫なのか。ランドデザインが不鮮明と感じている。

*光塩女子学院初等科 影森校長先生

小中連携が未だ難しい。創立以来、小学校1年生より週2時間英語教育を行ってきた。「美しい英語を」を目標としている。インターナショナルからの入学は少ない。

*聖パウロ学園 高橋理事長先生

発表は大変参考になった。四技能と、イメージで英語学習を進めている。

*神奈川 サレジオ学院 鳥越校長先生

ICTを使うことで教育負担を減らすことになると思う。教員は自分でやりたがる傾向にあるが、小テストなどの負担を減らすこと可能だ。あえて申し上げると、小学校で英語教育を行う必要はあるのか。

*横浜 雙葉小学校 田口校長先生

小学校は、国語が基本だと考えている。4年生国語で論理的思考の育成を指導。小学1年生では英語授業を行っていない。（横浜31校中、雙葉小学校のみ）来年度から、1～4年生で週1時間、5・6年生で週2時間実施。時数としては公立小学校と同様。中高とも特に英語の連携をとってはいな

い。中学には、英語に関して真っ白な状態で入ってきてほしい。2018年度（移行期間中）から、小学校英語学習を始めている公立小学校が増えている。現状を踏まえてやっていく必要がある。

*福岡 雙葉中・高等学校 西山校長先生

小学校1～6年生週2時間、英語学習実施。6年生終了時に英検準2級～4・5級程度が身につく。中学校からの入学者（小学校で英語教育を受けていない生徒）とは、差がある。春休み中に講座開催している。中学1年生からも格差は生まれてくる。まだまだ、応えられていないと思う。

*会津若松 ザベリオ学園 関校長先生

小学校では、週3時間英語実施。全校生が英検の級を持って、進学する状況。城星学園の英語目標の一つ1000語の、学年配当について教えて頂きたい。

*城星学園

リストを現在作成中。

*東京 雙葉小学校 河野校長先生

全学年週2時間の英語学習実施。実質は、週3時間実施。週1時間は、クラスを半分に分けて実施している。その他、「主の祈り」を英語で唱える、シンガポールへビデオレター作成。

6年生：英語レシテーションを互いに聞きあうなど。中学1年生の1学期のみ、小学校からの内部進学者と、中学校からの外部進学者とに分けて英語授業を行う。中高の英語授業について、小学校の英語授業を見て、現在研究中。

*仙台 聖ドミニコ学院中高等学校 小笠原校長先生

小学校から高等学校をつなぐのは中学校が柱となると思う。中学校で教える先生が、小学校で教えることをスタートしている。また、小学校英語科教員が、中・高教員免許を取るようにして、中学校で教えることからスタート。英語学習について：句読点・切れ目が分かると、英語が入ってくる。英作文は、書き換える力が必要。

*静岡 サレジオ中学校 谷口教頭先生

小学校では丁寧に行っている。5年生で英語合宿、6年生でオーストラリア研修（9泊）を実施。上智大学と提携し、英語学習の大目標を、大学受験のための英語から、「Communication English」への転換をはかっている。中学校では、小学校からの内部生が外部生に教えるなど、学び合いの中で英語学習を行っている。

*大阪星光学院 中・高等学校 鈴木校長先生

以前の英語学習に戻るかもしれないというお話を聞いて、英語に弱い子どもが増えていると感じる。原因として、骨組みを分かっているからではないか、骨組みの学習が欠けている。以前の学習、グラマー学習で骨組みを学ぶ時間も必要ではないか。

*東京サレジオ小学校 垣内校長先生

5・6年生で週1時間の英語学習実施してきた。今年度からは、2020年度からの改革を踏まえて、3・4年生週1時間、5・6年生で週2時間実施。

まとめ

城星学園小学校・亀谷校長先生

英語教育は、今、模索の時期である。小学校と中・高等学校が英語の連携を無理やり行うのではなく、先ず、先生同志の連携が必要なのではないかと感じました。

時間通り終了



ミサ 大阪カテドラル聖マリア大聖堂にて

司式 大阪大司教区 教区長

トマス・アクィナス 前田 万葉 大司教



閉会式
閉会挨拶

日本カトリック小中高連盟 副委員長
カリタス女子中学高等学校 校長 齋藤 哲郎

次回開催地区代表挨拶
熊本マリスト学園中学校高等学校 校長 岩永 政晴



終了